

高薄町長

道東自動車道が全線開通後、トナム・十勝清水-C間の交通量は、平成23年12月現在で、以前と比較し約1.7倍増加している。

平成23年に国のモデル事業の採択を受けて、「十勝清水西景+1」のひとつ、美蔓パノラマパークでシーニックカフェを開設した。新年度は、観光協会の主催で開設される予定である。

今後、北海道ガーデンショーに向けて、物産販売等を含め、関係機関と協議し、観光振興策を検討する。



シーニックカフェには多くの人が訪れ景色を楽しんだ。

行財政改革の 取り組み

佐藤幸一議員

行財政健全化実行プランも、市民の協力を得て成果があらわれたことは、大変喜ばしいことである。次の点について伺う。

①職員給与の独自削減は、一部を残し終了したが、常勤特別職員及び非常勤職員の報酬は減額されたままである。復元するなどの見直しをしようか。

②本町には、職員の定員管理計画がなく、それに代わるのが行財政健全化実行プランで示している一般会計職員数の120名だと聞いている。平成23年4月の当初予算時点での職員数は164名で、そのうち一般会計職員数は150名となっているが、今後、120名への達成の見込みはあるのか。

高薄町長

①今日の社会経済情勢からみても、厳しい状況のため、当面は増額等の見直しをする考えはない。

②一般会計職員数は、平成28年度には140名程度に減少すると想定している。行財政健全化実行プラン策定時に、財政状況等から120名程度が望ましいとしたが、固定したものではない。

職員採用については、退職者数にかかわらず、毎年1名ずつ補充していきたいと考えている。今後、福祉の面など、新たな政策課題が増え、業務が増加することが予想されるので、それらを考慮しながら、適正な職員体制を目指していきたい。

小・中学校に おける 平和教育の 現状は

佐藤幸一議員

戦争の体験は社会的に風化されつつあり、現在の子どもたちにとっても、被害や痛みを自分自身のものとして想像するという

ことが困難な状況になっている。

子どもたちに平和と命の大切さを伝えていかなければならないと思うが、本町の小・中学校での平和教育の現状はどうなっているのかを伺う。

三澤教育委員長

小・中学校では、教育基本法や学習指導要領に基づき、社会科・道徳の授業を通して、平和教育が行われている。また、教育委員会で発行している小学校3・4年生向けの社会科副読本では、本町の戦時中の様子が掲載されている。

さらに、清水小学校では原爆に関する写真を展示したり、御影中学校では北方領土に関するパネルや新聞記事の掲示を行うなど、子どもたちの関心や課題意識を高めている。

今後も、平和や命の尊さについて、発達段階を考慮して理解できるように、学校・家庭・地域・行政が一体となって子どもたちを育てていきたい。

新年度 予算編成の 考え方は

原 紀夫議員

新年度予算編成は、一括交付金の配分も流動的で、国や道の動向を的確に把握する必要もあり、厳しい編成下にあると考える。

予算編成は、平成23年3月議会でも指摘したが、年々増加する事務事業のほか、多くの事業に対し、新たな着眼点で発想の見直しを図る方向で進められているのか。

今後4年間で、福祉施設建設支援や消防庁舎建替



清水消防庁舎は築42年が経過しており、耐震上、整備が必要となっている。

等を含む、22億円を超える大型事業について、議員への説明があつたが、これら事業について、全職員周知のうえで説明されたのか。老人ホームなどの必要性は認めるが、過去の道に逆戻りしないか懸念されるかががが。

高薄町長

長引く経済の低迷や東日本大震災等によって、国の財政見直しも先行きが不透明であり、一括交付金も都道府県あるいは指定都市と限定され、市町村への配分はない状況である。新年度予算では既存事業の見直しを行いながら、国の制度改正など情報収